

2025 琉球大学 二次「国語」講評

大問1は森絵都の小説。タウン誌の取材を行う「私」と取材対象者との関係の深層についてまで理解できるかを問うもの。表現意図など文学的文章ならではの問題傾向が顕著である。大問2は評論文。人間の持つ共感力への解説を加えつつ、ChatGPTなどの生成AIの到来による人間の在り方の変容に警鐘を鳴らす内容であった。大問1、大問2ともに例年通り、「あなたの考え」を問う出題がある。大問3は平敷屋朝敏の古文作品からの出題。文法知識や和歌の修辞法など基本的な問題が中心。大問4は漢詩からの出題。漢詩の押韻、書き下し文の他、作者が詩に込めた思いを答える問題も出題されている。語彙力と同時に思考力も問われる例年通りの良問である。

2025 琉球大学 二次「英語」講評

長文読解2題、対話形式1題、テーマ英作文1題と大問構成は例年同様であるが、記述形式で解答する設問が増えるなど、変化が見られた。

大問1は説明問題、内容一致、要約問題が出題され、要約問題は指定された文字で始まる英単語を入れる形式だった。大問2は、説明問題、内容一致だが、選択肢を選ぶ際に迷った受験生もいただろう。長文の総語数は昨年度に比べ減少したが、記述問題が増えたため、時間的な余裕はなかったかもしれない。

大問3の対話文完成は、選択問題がなくなり、記述問題に変わった。大問4のテーマ英作文は2つのグラフを参考に自分の考えを述べる形式だった。

今年度の英語の問題は、全体的に難化したと言える。

2025 琉球大学 二次「数学甲型」講評

大問数は4問で昨年と変わらず。小問数は13問で、昨年より3問増加。数学Ⅲから2題、数学Cから1題、数学Aから1題は例年通り。難易度は例年並み。

第1問は数学Ⅲの微分法から不等式の証明問題。問3、問4は帰納法を用い、解きにくい。第2問は数学Ⅲの積分法から定積分で表された関数の問題が出題。比較的解きやすかった。第3問は数学Cの空間ベクトルから平面に下ろした垂線の交点等の典型問題。2023年以来の出題。第4問は琉大では頻出の数学Aの確率から、袋の中から玉を取り出す問題。

琉大の数学は大学入試の基本的な問題が出題されるので、教科書をマスターした上で入試問題の演習にも取り組んでおくとよい。

2025 琉球大学 二次「数学乙型」講評

大問数2問、小問数5問で例年と問題数は変わらず。全体の難易度は昨年より易化した。

第1問には、問1に数学Iの数と式から循環小数の周期性を考える問題。問2に数学Aの数学と人間の活動から21の階乗を素因数分解する問題。問3は数学IIの複素数と方程式から整式の割り算で余りを求める問題が出題。第2問には、数学IIの微分法から、極値を取る条件と曲線と直線が接する条件の出題。例年出題されていた積分が出題されなかった。

教科書をしっかり勉強していれば解ける問題と、根気強さが求められる問題が出題された。

受験生は教科書をしっかり理解することと、普段から煩雑な計算を根気強く続ける努力を心掛けて欲しい。

2025 琉球大学 二次「理科」講評

〈化学〉

昨年からの4題構成は継続され、大問1と大問2は医学部医学科との共通問題であった。難易度は昨年より全体的に易化した。

大問1は化学平衡と熱化学に関する問題。大問2は有機化学に関する問題でかなり易しい。例年出題されていた構造決定問題は出題がなかった。大問3は酸化還元反応と電池・電気分解から出題。大問4は昨年が続いて無機化学からの出題。硫黄と硫黄化合物の性質と溶解度積について出題された。新旧課程移行時の出題としては配慮に欠ける出題と考えられる。

今後の対策として、化学の考え方を教科書で身につけよう。入試の定型・標準的な問題は問題集でしっかりできるようにしておこう。

〈生物〉

大問数は昨年までと同じ4題である。大問1は生態系からの出題で知識だけではなく、目的に応じて最適な調査場所を選択する考察問題が出題された。大問2は遺伝子を扱う技術の分野からサンガー法が出題された。語句だけでなくゲノム情報の取り扱いに関する倫理的な課題についても問われた。大問3は生物の進化からの出題で、久しく出題の無かった会話文形式の出題であった。注釈が多く読解力を問われるような問題もあり、苦戦した生徒も多かったかと思われる。大問4は植物の環境応答・代謝の問題で沖縄県の環境に適した植物としてC4植物CAM植物が挙げられ、グラフを参考にして記述での説明が求められた。

〈物理〉

大問1は小問集合、大問2は力学、大問3は電磁気からの出題。大問1は全分野からの基本的な問題であった。大問2Aは放物運動の問題。問3では、設定をしっかり把握し、立式できたかどうか。計算力も必要だった。大問2Bは単振動の問題。遠心力を考慮した立式ができたかどうか。大問3Aはコンデンサー回路の問題。スイッチ開閉の際の電荷保存則がポイント。大問3Bは荷電粒子の運動。電場と磁場を理解していれば高得点が取れたはず。

例年に比べ難化していた。計算力が問われる問題が多かった。解ける問題から確実に解き、合格点を確保したい。教科書レベルをマスターし、思考力や計算力を要する問題まで演習したい。

〈地学〉

昨年から変化し、一昨年と同じ4題構成に戻った。全体的に標準的な内容であった。

大問1は地球の歴史に関する問題であり、世界や日本に存在する最古の岩石について問われた。大問2は惑星の運動に関する問題であり、例年ではあまり見られない人物を答える問題が穴埋めとして出題された。大問3は地層・岩石に関する問題であり、問8では例年通り地史について問われた。大問4は波に関する問題であり、一部与えられている公式を用いた計算問題が主であった。

今後の対策としては、教科書の内容を隅々まで読み、細かな内容までしっかりと把握しておく必要がある。

2025 琉球大学 二次「小論文」講評

〈国際地域創造学部 国際地域創造学科〉

グローバル化による近年の芸術と地域との関わりについて、受験生の考えを問う。設問は四つと増え、課題文の正確な読み取り、ジェントリフィケーションなどの言葉や格差についての知識・設問のオーダーに答える力が求められた。

〈人文社会学部 琉球アジア文化学科〉

『新千年図像晩会』を題材とし文字と絵について論述する問題。問一は①本文の説明、②自身の意見、問二は本文での定義づけと自身の考えを説明するという問題。書く文字数は例年通りだが、今回の資料はイラストも多用され、例年より分量が増えた。

〈人文社会学部 人間社会学科〉

コロナ禍での自粛行動を取り上げた課題文を読み、現代人にとっての利己と利他について論述する問題。自分が経験した、他者との関係の中での体験談を挙げる条件が付いた。課題文は過去2年に比べて2ページ分減った。制限字数は例年通り1000～1200字。

〈教育学部 学校教員養成課程 中学校教育コース 教科教育専攻 生活科学教育専修〉

高等学校家庭科の学習内容である子供との関わりと保育・福祉について、子育ての社会的支援のために整備された制度や施設の具体例を挙げ、そこに期待される役割と課題を述べる設問となっている。設定された文字数は600字以上、800字以内。

〈教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース 学校教育専攻〉

「給食の歴史」という課題文から、3題構成。問1は筆者の考えを説明する問題、問2は自身の経験を踏まえて答える問題、問3は具体例を挙げ、食を生かした教育の構想を述べる問題。教育現場における給食の意義、食育の在り方が問われていた。

〈教育学部 学校教育教員養成課程 中学校教育コース 教科教育専攻 社会科教育専修〉

女性の歴史教育について2つの資料が出され、問1は近年の日本の歴史教育についての筆者の立場を、問2はアメリカの教科書の記述方法を具体的に、問3はこれまでの歴史教育の問題点と今後の授業実践についての展望をそれぞれ述べる問題であった。